

C-1 岩沼市寺島地区寺島集落

2012年12月17日(月)

報告者名	滝澤 克彦	被調査者生年	1927年(男)
調査者名	滝澤 克彦	被調査者属性	農業
補助調査者	なし		

本調査報告は昨年度調査(C-1)の補足およびその後の状況に関するものである。

日月堂のお祭り

かつては当番の宿で行ったが、現在は堂で行うようになった。宿では餅を搗き、おこわを蒸かした。紙に包んで来た人にあげた。蒲崎や新浜など周辺の集落からも来る人がいた。現在では、大根、白菜、里芋、フクデモチなども供える。フクデモチ(福手餅)とは鏡餅の大きなものであり、白木の台に米を敷き、その上にもちを2つ重ねる。宿では、米の真ん中に紙に包んだお賽銭を入れて渡し、お札を受ける。

日月堂の拝殿は地震により倒壊したが、震災後は本殿前にテントを張って仮設の拝殿を作って行ったと思う。祭礼に際して、特に催事はないが、早股の神楽を呼んだことが自分の覚えている限りで2回ほどあった。

集落のお祭り

日月堂のお祭りとは別の祭が、3月1日と11月の何日かにある。単位は各家ごとであり、集まって何かをするということはない。赤飯を炊き、おかずとお神酒をカミサマに供える。かつては旧暦で行っていたが、今は新暦で行う。

オフクラ様とお正月様

オフクラ様とは家の敷地内に祀られているカミサマのこと。敷地内にある地内明神(じないのみょうじん)が我が家のオフクラサマである。その他にヘビを祀った祠がある。祠には幣束を供えて、ゴシンイレがされている。

正月14日の日が変わる頃に、オフクラ様のところにお正月様を送る。お正月様には、送り出す前にアカツキガユ(餅、生米、小豆を炊いたもの)、大根漬(干し大根、糠、塩)をお供えする。それから、お正月の注連縄などをオフクラ様のところへもって置いてくるのである。20年ほど前から日月堂でどんと祭を行うようになり、注連縄などはそこで燃やすようになった。それ以前は、オフクラさんのない家では竹駒神社にもっていった。

オフクラさんは津波で流されたが、みつけて再び設置した。

正月には各所に注連縄を張るが、そのための縄を9月8日の日月堂のお祭りのときになっておく。以前は風呂で身を浄めてから、手につばをつけたりしないで、清浄な状態で縄をなつた。震災後はしていない。

子供神輿

子供神輿を春休みに公会堂で実施していた。PTAが中心となって運営している。公会堂ではご飯などを振る舞っていた。かつては年に何回も近隣の集落へ出かけて行って担いでいたものである。

集団移転、家の修復について

岩沼市では、集団移転では部落ごとに集まるのではないかと思う。蒲崎に残るのは12軒、新浜は5、6軒である。残る家が少ないため、寺島全体で1つの集落になってしまうのではないかと考えている。

家の修復については、早く直しすぎると、その費用の出所について色々と臆測が飛び交うために、余り早く直す

ことを控えるような傾向がある。

農業共同請負について

大字寺島では農業が共同請負化することが決まり、そのために動き回っている時期である。その会合のために月2、3回、寄り合う機会がある。その他、新年会など集まる機会が多い。



写真1 除塩作業中の農地